

蛇池 —私が子供だった頃のお話—

副会長 斉藤 文孝 (さいたま市見沼区)

僕たち仲良し組は春休みになると川向うの蛇池まで探検に出かけました。矢田川にかかる間口二間の橋はボロボロで木枠の骨組みだけとなり、真ん中に一枚の板が渡してあるコワーい橋でした。僕たちはこのガタガタ橋を四つ這いになりながら渡りました。

橋を渡れば、あたり一面麦畑です。空には雲雀が「ピーチクパーチク」鳴いています。畑の淵には肥溜めがありました。肥溜めの上には枯葉がのっかりあたかも固そうに見えます。石を投げても沈みません。「乗っても大丈夫かなあ」と誰かが言いました。誰かが大きな石を持ってきて落としました。「ボソッ」その石は沈み込みました。

新川に着くと原付自転車に乗ってきたおっさんが、カーバイトを川に投げました。「ブクブク」と白い泡がいっぱいに広がり、フナやモロコがぷかぷか浮いてきました。僕たちは「ミツリョーだ。ミツリョーだ」といいながら歩きました。

蛇池に着くと葦が生い茂り、菱がびっしりと浮かんでいました。池に手を入れるとカラス貝がゴロゴロと取れました。「これ、食べられるかな」と誰かが言いました。「ヨコイなら食べるヨ。アイツ蛇を食べたんだぞ!」「ヨシ! 持って帰ろう」僕たちはズボンのポケットにカラス貝をいっぱい入れて帰りました。

そのころ、近所に中学生のお兄さんがいました。釣り好きでよく蛇池に行きました。その日はいい天気で多くの人が釣りをしていました。お兄さんは浮きをじっと見て、釣りに夢中になっていました。すると急に冷たい風が吹き、水面が波立ちました。ふとまわりを見るともう誰もいません。

お兄さんは「ゾクッ」と身震いしました。そして三日三晩熱にうなされ、学校を休みました。

僕たちは「お兄さんは蛇池の大蛇に呪われた」と言い合い、二度と蛇池に行きませんでした。

それから半世紀が過ぎて私はこの蛇池に行きました。池のまわりにはぎっしりと家が建ち、池は公園となり、一枚の立て札が立っていました。

「蛇池 戦国のころ、この池に大蛇がいるという話を織田信長が聞き、……自らが池に入って探したが…見つからなかった。その後、この池を蛇池というようになったという。 名古屋市教育委員会」

池に「噂の大蛇」などいないことを証明してみせる信長らしいエピソードですが、まさか私の知っている蛇池が、信長ゆかりの池だったとは知らず、ビックリしたというお話です。

博物館を出て・博物館へ帰って・友の会で目指す～こと

=第1面登場の斉藤文孝さん(副会長・見沼区)から、もう一言=

○野島の地藏尊

この夏、友の会スポット見学会で、越谷市浄山寺の地藏尊を拝観してきました。3.11大地震の際、足首が破損し、その修理の際に、平安時代初期(9C前半)のものと分かり、このほど、国の重要文化財に指定されました。この地藏尊は何度も火災に遭い、その度に本堂から運び出され、千二百年もの間大切に守られてきたそうです。あの穏やかでふくよかな顔を、今拝観できることに、ただただ頭が下がります。

○湧き上がる疑問の数々

しかし拝観に行くと、越谷と岩槻の境の田園地帯に、どうしてこんなに立派なお地藏様があるのか～とか(失礼!)、このお地藏様は、慈覚大師円仁が彫った仏像で、岩槻慈恩寺の観音様、川口慈林寺の薬師様を合わせて一木三体の仏像だという伝説発生のいわくは?～とか、東国・下野出身の円仁の始めた延暦寺横川の浄土教(地藏信仰を重視)聖地と、この地藏像との関係は?～とか、疑問は次から次へ湧き上がってきます。

○博物館に帰って調べよう!

こうした疑問にぶつかったら、博物館に帰りましょう。そして展示物を今一度見て、体験コーナー横の書籍をひもといて、仲間と意見を出し合って議論しましょう。たどりついた成果をみんなで発表しましょう。

○友の会をめざすもう一つの道

現場びに出かけ、自分の目で見たり聞いたりする。そしてそこでわいた疑問に向き合い調べ、みんなで議論し、発表する。これが、これから友の会のめざす、もう一つの道ではないか～と思っています。

JUNO 友の会クラブ通信

2016(平成28)年10月10日

活動のお知らせ & 今後の予定

羽根倉街道(奥州脇道)シリーズその4

10月1日(土)に 古道探索倶楽部の第15回見学会開催

古道探索倶楽部の第15回鎌倉街道を訪ねて、「羽根倉街道(奥州脇道)シリーズその4」。10月1日に実施、参加者21名。上尾宿は江戸時代に栄えた中山道の宿場町で、江戸・日本橋から数えて5番目。本陣、脇本陣、問屋場、旅籠などが多くあったという、当時の屋根瓦の一部を塀にして残っている。

道脇には「鎌倉街道」、「原市新道」の標識がやたらに目につく、芝川にかかる橋の名は「鎌倉橋」。この橋を渡ると「二ツ宮氷川神社」に着く。(中略)

相頼寺は永徳2(1382)年の銘の大型板石塔婆があり、市指定文化財。板石塔婆に興味のある方必見。伊那氏屋敷跡は江戸時代初期、伊那氏が設けた陣屋という。今では土塁、堀などが少々現存する程度と説明板があるのみ。現地では会員で地元の金子さんの説明・解説をいただき有難うございました。15時前に丸山駅に無事着き、皆様お疲れ様でした。(詳細は友の会ブログで)



トピックス・友の会

☆今後のイベントスケジュール

- 10月21日(金) 浮世絵クラブ 「両国～深川」 この号で詳細をご紹介します
- 10月28日(金) 友の会・プレミアム講座 「埼玉の東照宮」 この号で詳細をご紹介します
講師：中村陽平氏 (当館学芸員)
- 11月3日(木・祝) 博物館・友の会共催講演会 「徳川家康～その歴史的役割」
講師：大石 学氏 (東京学芸大学教授) 満員御礼・募集締切ました
- 11月3日(木・祝) お祭り研究クラブ 「自衛隊入間基地航空祭」 この号で詳細をご紹介します
- 12月11日(日) 友の会・見学会 「岩槻・石工・田中武兵衛」 11月号で詳細ご紹介します
- 1月8日(日) 博物館・友の会共催講演会 「おもてなしの料理」 12月号で詳細ご紹介します
講師：落合なお子氏 (テーブルコーディネーター)
- 2月19日(日) 博物館・友の会共催講演会 「古代祭祀と神社の起源」 1月号で詳細ご紹介します
講師：笹生 衛氏 (國學院大學教授)

☆いま、当会ご入会にご便利です

4月からご半年をすぎ、来年3月までの当会会費は1000円です。会員の皆さまのお友達やご家族にご入会をぜひ、おすすめください。ご入会いただき、一緒に、なかよく、当会イベントへご参加ください。

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集中)

◆11月3日に「自衛隊入間基地航空祭」◆

日本の祭り研究クラブ

- ◀主催▶埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」
◀内容▶入間基地航空祭(狭山市)
◀行程概略▶航空自衛隊入間基地(狭山市)で毎年11月3日文化の日で開催されているイベントです。ブルーインパルスのアクロバット飛行が最大の目玉で13時過ぎ～14時20分予定。ミス航空祭のパレード・落下傘降下・航空機の展示等が楽しめます。日本一混雑する航空祭！
◀日時▶2016(平成28)年11月03日(日) 雨天決行
◀集合▶西武池袋線「稲荷山公園駅」改札出口 午前8時30分
◀費用▶交通費(電車・バス等)、保険代100円等
◀持物等▶歩きやすい靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等
◀申込・問合せ▶ 元木孝(携帯:090-2259-1673)
◀その他▶ 次回予定は、平成29年1月15日(日) 萩日吉神社流鏝馬(ときがわ町)

◆両国駅から深川まで下町を歩きます◆ 「浮世絵クラブ」のまち歩き&見学会

- ◀主催▶埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「浮世絵クラブ」
◀日時▶2016(平成28)年10月21日(金) 9時半～15時頃 雨天決行(各自で判断)
◀集合▶午前9時30分 JR総武線 両国駅 西口改札前(詳細はJUNO前月号またはホームページで)

埼玉の東照宮

～その数、なんと70以上！！～

徳川家康(東照大権現)を祀った東照宮。埼玉では、仙波東照宮(川越市)が良く知られていますが、江戸時代にはこの他にも大名から庶民までもが自由に東照宮を勧請していました。こんなところにも東照宮が！と、びっくり。特別展「徳川家康」に関連し、県内各地に勧請された様々な東照宮の歴史や文化財をご紹介します。

講師の中村さんは、日本近世史がご専門。今回の特別展「徳川家康」に尽力されるとともに、日頃から常設展示室第7・8室の展示の刷新・紹介に取り組んでおられます。

講師 中村 陽平 氏 当館学芸員

とき 平成28年10月28日(金)午後 1 時半～2時半

ところ 当館講堂 **ご参加無料**

申込方法: 特別展関連の他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。あらかじめの質問があれば簡単に記入ください。 締切: 10月20日(木)までに必着で、下記の宛先へ。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達もご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

新羅琴（しらぎごと）の源流を訪ねて

学芸主幹（企画担当） 加藤 かな子

正倉院宝物のなかに、新羅琴という楽器が伝来しています。新羅琴は韓国の代表的な弦楽器のひとつ加耶（カヤ・伽倻）琴（グム）のことですが、奈良時代に新羅から日本にもたらされたため、日本では新羅琴と呼ばれていました。今回の旅では、新羅琴の源流を訪ねて、韓国第3の都市大邱（テグ）からバスで約40分の高霊（コリョン）まで行ってきました。

高霊は3世紀頃から562年まで栄えた大加耶の王都、そして加耶琴誕生の地でもあります。まず大加耶歴史館で旧石器時代から現代までの高霊の歴史を概観し、隣接する王陵展示館へ。二つの博物館がある場所は、有名な池山洞（チサンドン）古墳群の下に位置しており、周辺には王族や貴族の墓と推定される大小約200基の円墳が分布しています。

ここから、韓国三大楽聖のひとり・加耶琴の名手干勒（ウルク）について展示している干勒博物館へは約3km。タクシーの車窓から見える景色は、武蔵嵐山やときがわ周辺の風景と似ていました。

小さな博物館は加耶琴をイメージした屋根で、加耶琴を奏でる干勒のモニュメントと加耶琴の調べが私たちを出迎えてくれました。

加耶琴は、大加耶の国王嘉悉（カシル・実）により5世紀後半頃に制作されたと考えられています。また、嘉悉王は、当時楽師として活躍していた加耶琴の名手干勒を高霊に呼び寄せ、王命により加耶各地に伝わる郷土色豊かな音楽に歌や舞をつけた12の楽曲を作らせました。

大加耶は562年に新羅に統合され滅亡しますが、滅亡前に干勒は加耶琴を携え新羅に亡命します。

干勒は新羅の真興（シンフン）王の前で加耶琴を演奏する機会を与えられ、その演奏に感動した王は干勒から新羅の官人に亡国大加耶の琴・歌・舞を伝習させました。干勒が伝えた音楽は新羅の宮廷音楽に取り入れられました。

展示を観ながら、「大加耶は朝鮮半島の興亡のなかに埋もれたが、加耶琴という楽器は正倉院宝物のなかに、そしてその琴調は韓国伝統音楽である国楽のなかに、今も生き続けている」と改めて実感できました。

展示観覧を終えて受付に戻ってきたら、職員の女性がちょうど加耶琴をカバーから出しているところに遭遇しました。「加耶琴の先生なのですか？」と尋ねたところ、今習っているとのこと。「ちょっと弾いてみて」というので加耶琴を膝にのせ、いわれるままに弾いてみました。日本の箏とは違い、素手で弦をはじいて弾く加耶琴。にわか奏者となった私が教わった曲は、有名な民謡アリランでした。

新羅琴の源流を訪ねて大加耶の旧都高霊まで辿り着き、加耶琴の名手干勒ゆかりの地で加耶琴を教わり、アリランを奏で～今回も忘れ難い旅となりました。

トピックス・友の会

1.ぜひ、ご参加ください！今後のイベントスケジュール

- 12月3日(土) 古道散策倶楽部 「赤山街道大宮道」 <本号でご紹介>
- 12月11日(日) 友の会・見学会 「田中武兵衛の石仏巡り」 <本号でご紹介>
- 1月8日(日) 友の会・博物館・共催講演会 「おもてなしの料理」(仮題)
講師：落合なお子先生(テーブルコーディネーター) <次号紹介予定>
- 2月19日(日) 友の会・博物館・共催講演会 「古代祭祀と神社の起源」
講師：笹生 衛先生(國學院大學教授) <今後紹介予定>
- 1~3月(詳細未定) 友の会・見学会 「東京の古墳3」
- 3~4月(詳細未定) 友の会・見学会 「相模国分寺方面」
- 4月23日(日) 友の会・博物館・共催講演会 「エジプト発掘の魅力」
講師：吉村作治先生(早稲田大学名誉教授)
=会員限定とする予定です。ぜひ、周囲の方にご入会を
ご勧誘ください=

2.新年度は、新しい会員の方をお迎えする季節です。友の会のお仲間を増やすために、お心当たりの方へ、積極的なお声かけをよろしくお願い申し上げます。
12月までに、ご入会の方は年会費1000円。お試し入会にも好適です。

JUNO 友の会クラブ通信

2016(平成28)年11月10日

活動のお知らせ&今後の予定

「浮世絵を歩く」—今回は両国から富岡八幡宮まで

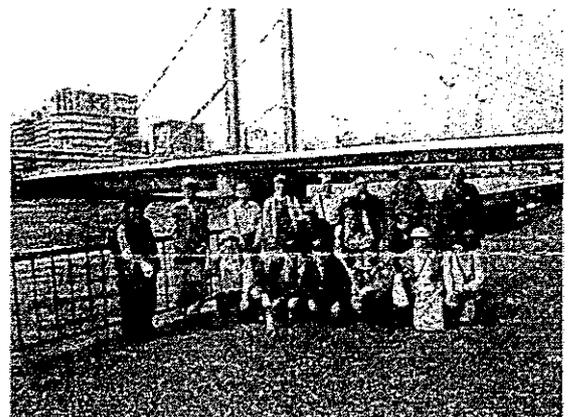
10月21日(金)に 浮世絵クラブの「まち歩き」開催

廣重の浮世絵『名所江戸百景』に描かれた舞台を訪ねる「浮世絵を歩く」を続けてきましたが、今回は両国から富岡八幡宮まで歩きました。午前10時前、JR両国駅に20名が集合。秋晴れの下、まずは駅近くの回向院へ。次に両国橋を渡ります。多くの浮世絵に描かれた名所ですが、左岸のテラスは工事中で堤防沿いに新大橋へ進みながら行き交う水上ボートに当時の江戸をしのびます。

次の新大橋は、日本橋側から対岸を望んだ構図がご存知の「大はしあたいの夕立」です。黄色の吊り橋状の橋の中央にそのレリーフがあります。対岸に渡って、芭蕉神社(芭蕉庵旧跡と推定)を経て、小名木川へ。旧中川から隅田川を結ぶ運河で横十間川、大横川と交差する江戸でも重要な河川で、ここに架かるのが万年橋。

時間の関係で、右折して深川江戸資料の前の風情のある横町を抜けて清澄庭園へ。この庭園は「名所百景」にはありませんが、紀伊國屋文左衛門の屋敷跡で下総関宿藩下屋敷をへて明治になって三菱の施設になり整備された名園です。池を囲むように随所に配置された各地の名石がみごとです。最後はこれも交通路だった仙台堀川を通して、富岡八幡宮へ。

(浮世絵クラブは来春以降に新企画を予定しています)



古道探索倶楽部	
第16回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道大宮道 1	
日時	12月3日(土) 9時30分～15時30(予定)
集合	埼玉高速鉄道新井宿駅改札口付近(9:30)
コース	新井宿駅⇒源長寺⇒赤山陣屋址⇒真乗院⇒木曾呂阿弥陀堂⇒木曾呂の富士塚⇒八丁堤⇒見沼通船堀⇒大間木水神社⇒鈴木家住宅⇒附島氷川女体社⇒東浦和駅
参加費	資料代等300円
その他	少雨決行(悪天候時には、連絡します)
	歩行距離は約7kmで、史跡巡りをいれると約8kmです。歩きやすい服装・靴でご参加ください。
	途中にコンビニが少ないので、昼食・水分は必ず事前に御用意願います。
	保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
問合せ先	前日まで犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634
	当日は 小俣(おまた) 携帯 090-3436-9017
参加申込み	11月26日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

* 赤山街道とは、関東郡代の伊奈氏が、本拠地の赤山陣屋と永田陣屋・お屋敷山を結ぶ大宮道、赤山陣屋と杉浦陣屋・越ヶ谷御殿を結ぶ越ヶ谷道、赤山陣屋と小菅御殿を結ぶ千住道をいいます。伊奈氏は、この道を土木工事の推進する中で、物資・年貢米の輸送、鷹場の管理等で利用してきました。これを十回前後のシリーズとして企画いたします。

萩日吉神社流鏝馬祭り (ときがわ町・県指定無形民俗文化財)

1月15日(日)、第20回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)

- ◀主催▶ 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」
- ◀内容▶ 萩日吉神社流鏝馬祭り (ときがわ町) 県指定無形民俗文化財
- ◀行程概略▶ 萩日吉神社は欽明天皇6年(537)11月、蘇我稻目によって創建されたと伝えられ、明覚郷(萩窪・馬場・市川氏)と大河郷(横川・加藤・伊藤・小林氏)の2頭の馬が走ります。
- ◀日時▶ 2017(平成29)年1月15日(日) 雨天決行
- ◀集合▶ JR八高線「明覚駅」改札出口 午前10時00分
- ◀費用▶ 交通費(電車・バス等)、保険代100円等
- ◀持物等▶ 歩き易い靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等
- ◀申込・問合せ▶ 元木孝(携帯:090-2259-1673)
- ◀その他▶ 次回予定は平成29年2月22日(水) 番外編「江戸城址(皇居東御苑) ウォーク」

○空いたお時間で、あなたも、友の会のお手伝いをお願いできませんか？

現在の友の会の会員数は約600。しかし、職員は「0」です。どうして、運営ができているのか。会員の皆さまの善意にささえられて、ここまで、やってきました。空いた時間を融通していただき、お知恵を出していただき、なんとか、やってきました。そして、博物館からお金や人材が出ている友の会にまけない事業を行ってきました。あなたにも、この善意の輪にお入りいただきたいのです。とりあえずは、土日祝の友の会受付のシフトに2か月に1回、入っていただける方、受付の担当に、内容をきいてみてください。ぜひ!

関東一と謳われた岩槻の名工・

田中武兵衛 の石仏巡り

華麗で躍動感あふれる青面金剛像を見たら、きっとあなたは武兵衛の虜になることでしょう！



日時：12月11日(日)午前8時出発
大宮駅西口ソニックビル横

参加費：7000円

コース：

- ①「新四国八十八カ寺写し一番」大標柱（明星院）
- ②足立郡デビュー作灯籠（伊奈・氷川神社）
- ③華麗な六地藏（清浄院）
- ④ライバル萩原一門の菩提寺芳林寺
- ◎昼食 料亭・ほてい家（岩槻区仲町）
- ⑤地元林道町秋葉神社
- ⑥青面金剛像の腕比べ（見沼区片柳）
- ⑦越谷香取神社で名を上げる

◎御参加の申し込みは

- ・定員 45名（満員になり次第締め切らせていただきます）
- ・会員のご家族・ご友人はご参加可
- ・申し込み方法 往復ハガキに「12月11日見学会」・住所・氏名・会員番号・電話番号（携帯番号も）を明記し、〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 齊藤文孝 へ、その他座席のご希望などはハガキに明記ください。
- ・連絡先 090-4965-8275 齊藤

温 故 知 楽

滝 山 佳 樹 (さいたま市大宮区)

歴史と民俗に関心を持つ切っ掛けは、母に連れられて実家に帰る途中で見たお地藏さん、馬頭観音、庚申塔などの石造物、実家の近くの加茂宮の夜祭りで見た狐のお面を被ったお神楽と笛の音、又小学生の時の貝塚掘り、中学生の吉見百穴へのサイクリング等である。その後、河田楨『武蔵野の歴史』『武蔵野案内』（角川新書）を片手に一円を歩いた。

最近宮川進『埼玉の古墳めぐり』（さきたま出版会）を愛読している。古墳の説明は勿論、近隣の史跡や見所、B級グルメの案内もある。著者の古墳に対する思い入れの並々ならぬものを感じると共に人生観も垣間見ることができ、楽しい本で是非お奨め致したい。

さて、合併を前に辞め、次の職場を九州に決めたので、学生相手に学び遊んで第二の青春が送れた。山歩きや史跡巡りの中で印象に残るのは、金印出土の志賀の島、何故こんな処から〜と疑問を感じた。吉野ヶ里遺跡の建物を見た寅さんは「2千年前に造ったにしては新しいネ」と言って笑わせるが、一寸やりすぎの感もある。尤も我が埼玉でも騎西城は元々無かった天守閣も復元している。

九州独自で類例が関東に無いのは、①朝鮮式山城で、大野城跡（太宰府市）など白村江の敗戦（663年）後、築いたもの。日本書紀にも記載がある。②神籠石（こうごいし）は低山の側面に70センチ程の四角石を数キロにわたり並べたもので土塁の土留と判明。山城説が決定的となる。大工事にも拘らず、記紀に記載なき為、幻の九州王朝が築いたのだとか、諸説がある。③岩戸山古墳は大和政権と争って敗れた筑紫国造磐井（いわい）の墓で「磐井の乱（527年）は古代国家形成の為には必然的に通過しなければならない戦争」（『八女市史』上巻）としている。

帰郷後の関心は①埼玉古墳群の「中の山古墳」南方300mの常夜岐姫（トコヨキヒメ）神社。姫の名は記紀に見当たらないが、書紀に皇極3年（643年）富士川のほとりで蚕に似た虫を祭ると富と長寿が得られるとする大生部多（おほふべのおほ）が始めた宗教を秦造河勝（はたのみやつこかはかつ）が鎮座した記事が目にとまった。多の道教と河勝（聖徳太子とも関係が深い）の仏教との宗教対決だが、「律令国家形成の為に必要な信仰宗教統制」（『消える常世神』『古代の日本』6中部、角川書店）とされている。この信仰が養蚕を通じて上野経由埼玉に伝わったのではないか。或いは単なる江戸期の流行神か。

②大宮氷川神社の東隣に門客人神社が鎮座する。新編武蔵風土記稿によると古くは荒脛巾神社と称していたと言う。アラハバキ神は氷川神社の地主神だったが、消されている。他社では堂々と今も祭られている。原武史『出雲という思想』（講談社学術文庫）は氷川神社に関する必読書と思うが、アラハバキ神についてもふれて欲しかった。

③近頃、薩長史観や司馬史観への逆風が目立つようになった。小説は講談本同様歴史ではない。評価されてよい幕臣では小栗上野介忠順がいる。普門院（大宮区大成）が菩提寺であり、「罪なくして此処に斬らる」の碑も寓居した東善寺も知行地権田村（群馬県倉淵村）にあり地元は顕彰に努めている。勘定奉行でもあったから徳川埋蔵金伝説も楽しめる。（矢田ひろ明『小栗上野介忠順』（群馬出版センター）

紙幅を大中に超えてしまいました。この辺で幕とさせていただきます。

トピックス・友の会

1. ぜひ、ご参加ください！今後のイベントスケジュール

- 1月8日（日） 友の会・博物館・共催講演会 「日本のおもてなし・料理と器」
講師：落合なお子先生（テーブルコーディネーター） <本号紹介>
- 2月19日（日） 友の会・博物館・共催講演会 「古代祭祀と神社の起源」
講師：笹生 衛先生（國學院大學教授） <今後紹介予定>
- 1～3月（詳細未定） 友の会・見学会 「東京の古墳3」
- 3～4月（詳細未定） 友の会・見学会 「相模国分寺方面」
- 4月23日（日） 友の会・博物館・共催講演会 「エジプト発掘の魅力」
講師：吉村作治先生（早稲田大学名誉教授）
=会員限定とする予定です。ぜひ、周囲の方々にご入会をご勧めください=

2. 緊急・講演会のお知らせ

上記の吉村作治先生の講演会は参加ご希望が多数殺到すると思われるので、会員限定とする予定です。ただ、4～5月は新入会員が多くお入りいただけるチャンスであり、まだ会員でない方々を講演会に来ていただいて、新入会に結びつけようとするのができなくなります。

このため、年間計画にはない、次の講演会を開催し未入会の方々に、まず博物館へ足を運んでいただこうと考えました。もちろん、会員の方のご参加も大歓迎です。

○3月26日（日） 午後1時半～3時半

演題「縄文時代の老人と子供」 講師 山田康弘先生（国立歴史民俗博物館教授）

=縄文時代にもいたであろう「老人」や「子供」は、どういう暮らしをしていたのでしょうか。「老人と子供の考古学」というご著書のある山田先生にお話をいただくものです=

ご期待ください。

3. 年末のご挨拶

皆さまのご協力により、平成28年の当・友の会の業務を終えることができました。皆さま方には、よいお年をお迎えくださるよう、お祈り申し上げます。

長寿の祝いと厄払い

～企画展「祝いの民俗」から～

還暦、古稀、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、… 長寿を祝う場は、長寿化が進む現代社会でも様々な形で各地に残っています。お正月を迎えて企画展が開催される博物館で、人生の成熟に伴う諸行事について、厄払いも含めて考えてみましょう。

講師の内田さんは、日本民俗学がご専門。今回の企画展「祝いの民俗」開催に尽力されるとともに、日頃から民俗展示室第10室の展示の刷新・紹介や無形民俗文化財の調査に取り組んでおられます。

講師 内田 幸彦 氏 当館主任学芸員

とき 平成29年 1月10日(火)午後 1 時半～2時半

ところ 当館講堂 **ご参加無料**

申込方法: 企画展関連の他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。あらかじめの質問があれば簡単にご記入ください。 締切: 年内に必着で、下記の宛先へ。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達もご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

日本のおもてなし・料理と器

世界無形文化遺産に登録された「日本の食文化・和食」。今回は、その「おもてなし」の部分にスポットをあてて、料理、器に話題が集まる時期におうかがいしたいお話です。日本のおもてなしと西洋のホスピタリティとの違い～ 料理のはじまり～ ハレとケの食事の違い～ おもてなしの器とテーブルコーディネート～など、知っておきたいコトがいっぱいです。

講師 落合なお子 先生

(食空間コーディネーター・NPO法人食空間コーディネート協会副理事長)

日時 平成29年1月8日(日) 13時半～15時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン<野田線>大宮公園駅下車5分)

参加費 おひとり 300円

<当日は「返信ハガキ」をお持ちください>

ご参加のお申込みは～

○往復ハガキに、イベント名・お名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号を明記し、返信面にお名前・ご住所を記入、平成28年12月24日(土)までに下記へ。

○〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

○定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

石巻市立浜貝塚の発掘調査

たちばま

主席学芸主幹 西口正純

立浜貝塚は、宮城県北東部の太平洋に面した石巻市雄勝地区にあります。この地区は、東日本大震災で海岸線にあった集落が壊滅的な被害を受けました。

そのため、集落全体を高台に移転することとなりました。立浜集落の人々が移転の対象となった場所は、海拔20mほどでの丘陵で雄勝湾を南に臨むとても美しい場所です。現在も良好な環境は、縄文時代でも同じであつたらしく、縄文時代にはこの地点をはじめ周辺には多くの集落と貝塚が作られています。

中でも今回調査を行った立浜貝塚は、縄文時代前期(6000年前)から晩期(3,000年前)にかけてこの地区で最も規模が大きな貝塚で、丘陵の傾斜面に堆積した厚さ1mほどの土砂の中から、膨大な量の土器や石器が出土しました。

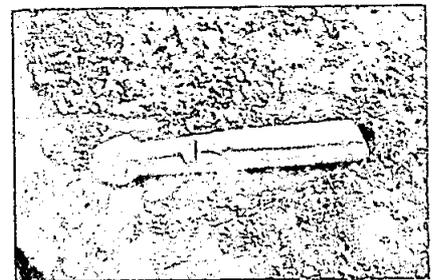
その中で最も多く出土したのが、縄文時代晩期の「大洞式」と呼ばれる土器で、東北の「亀ヶ岡式土器文化」を代表する縄文土器です。この型式の土器は、沈線で区画した幾何学文様が特徴で、関東地方をはじめ九州にもその強い影響を与えています。県内では、川口市安行にある縄文時代晩期の猿貝貝塚出土器などで、同じ手法の文様を見ることができ、「安行式土器」として関東地方の縄文晩期を代表する「標識土器」となっています。

土器の他にも、石斧や石鏃と共に石棒(子孫の繁栄を願うまつりに使ったものか)も多数出土しています。さらに調査の終盤には、立石りっせきと配石遺構(石組み)が見つかりました。配石は一抱えもある石が地面に配置されたもので、全体に強い火を受けた痕跡がありました。石の下を調査したところ土壙(穴)が見つかりました、出土遺物はほとんどありませんでしたが、他の遺跡の類似した遺構から墓や祀りを行った場所であった可能性が考えられます。

最近、調査を共にした地元の人から連絡があり、雄勝地区の人口は震災前の1/3に減少し、いまだ仮設住宅の暮らしが続いているとのことでした。一日も早く元の生活を取り戻されることをお祈りするところです。



大洞式土器



石棒



配石遺構

トピックス・友の会

1.ぜひ、ご参加ください！今後のイベントスケジュール

平成 28 年度

- 2月11日(土) 古道探索倶楽部「東浦和～与野」東浦和駅集合 <本号紹介>
- 2月19日(日) 友の会・博物館・共催講演会「古代祭祀と神社の起源」
講師：笹生衛先生（國學院大學教授）<本号紹介>
- 2月22日(水) 日本の祭り研究クラブ「江戸城址（皇居東御苑）及び周辺ウォーク」JR 東京駅丸の内中央改札出口集合 <本号紹介>
- 1月～3月 友の会・見学会「東京の古墳 3」<今後紹介予定>
- 3月26日(日) 友の会・博物館・共催講演会「縄文時代の老人と子供」
講師：山田康夫先生（国立歴史博物館教授）<今後紹介予定>
- 3月28日(火) 友の会・見学会「相模国分寺方面」<今後紹介予定>
- 2月～3月 友の会・見学会「東京の古墳 3」<今後紹介予定>

平成 29 年度

- 4月11日(火) 古道探索倶楽部「北浦和～指扇」北浦和駅集合 <今後紹介予定>
- 4月23日(日) 友の会・博物館・共催講演会「エジプト発掘の魅力」
講師：吉村作治先生（早稲田大学名誉教授）<今後紹介予定>
=会員限定とする予定です。ぜひ、周囲の方々にご入会をお勧め下さい=
- 5月(予定) 友の会・博物館・共催講演会「富士山の噴火に関わる歴史」
講師：小山正人先生（静岡大学教授）
- 6月 古道探索倶楽部「草加～越谷」草加駅集合 <今後紹介予定>

案 平成 29 年 6 月～1 月	講演会	仮題	「日本の山岳信仰」
	講演会	仮題	「板碑の発生（塔を含む）」
	講演会	仮題	「木綿が町を作った」
	講演会	仮題	「万葉集関係」

2.友の会からのお願い

友の会の会員資格、ご更新のほど、よろしくお申し上げます

◎このニュースに「振替用紙」を同封させていただきました。4月以降の年度につきまして、更新くださいますようお願いいたします。来年度も熱烈に「博物館を応援」いたしましょう！
なお、博物館における受付は土・日・祭に行っております。こちらでのご更新も可能です。
よろしく！

◎あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。お手伝いのお申し出も、上記の友の会の受付へ、お声かけください。

赤山街道・大宮道をたどるシリーズを開催

12 月 3 日 古道探索倶楽部

晴天。参加者 19 名。今回の主なコースは埼玉高速鉄道新井宿駅→源長寺→赤山陣屋跡→真乗院→木曾呂の富士塚→見沼通船掘→東浦和駅。源長寺は伊奈氏の菩提寺で、板碑は元徳 2 (1330) 年の銘。ここで記念撮影。赤山陣屋跡は赤山城跡のことで、関東郡代をつとめた伊奈氏の陣屋跡で、県の旧跡に指定されている。幕府の直轄地を治めるために設けられた役所で、大宮台地の最南端に位置する。現在城跡は、一面の植木や苗木畑に変わり、わずかに残る堀・土塁の一部が、往時を偲ばれる。(途中を省略)



木曾呂の富士塚は寛政 12 (1800) 年の築造で現存する県内最古の富士塚。木曾呂の阿弥陀堂は庚申塔が道標を兼ねたものを含めて 10 数基あり、庚申塔や道標に興味のある方にお勧めです。15 時に東浦和駅に着き、無事解散。お疲れさまでした。(詳細は友の会ブログをご覧ください)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集!)

第17回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道大宮道 2

2月11日(土)に「古道探索倶楽部」の街道歩き

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」

《日時》2017 (平成 29) 年 2 月 11 日 (土) 9 時 30 分～15 時 30 (予定)

《集合》JR 武蔵野線東浦和駅 改札口付近(9 時 30 分)

《コース》東浦和駅⇒大間木氷川神社⇒清泰寺・見性院の墓⇒大熊家表門⇒旧高野家離座敷⇒寛保の庚申塔⇒大東の富士塚・庚申塔⇒長覚院⇒与野駅

《費用》資料代・昼食等650円 (この回のみ特別)

《その他》少雨決行 (悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約 7km で、史跡巡りをいれると約 8km です。歩きやすい服装・靴でご参加ください。途中にコンビニ が少ないので水分は必ず事前に御用意願います。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。

*昼食をたべる適当な場所がない為、また、二月という寒い時期にあたるため、この回特別にお店での昼食といたしました。メニューは当日のお楽しみということで参加費が変わっていることを御理解願います。また、キャンセルは三日まえまでを厳守願います。

《申込》2月4日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて。

《問合せ》前日まで犬走(いぬばしり)電話 048-756-5634 当日は 小俣(おまた)携帯 090-3436-9017

(番外編) 江戸城址 (皇居東御苑) 及び周辺ウォーク

2月22日(水)に日本の祭り研究クラブ

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」

《内容》江戸城址(皇居東御苑)の概略(月・金は休園、但し、祝日は公開)・江戸築城は室町時代中ごろ、1456年、扇谷上杉氏の家臣である太田持助(道灌)が上総、下総で勢力をはる足利成氏に対抗するために城を築きはじめ、翌年完成した。・江戸開府は、小田原に起こった北条氏が関東を制覇すると、江戸城はその配下の居城となった。豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして関東を「徳川家康」に与えた。・天下の城として面目一新したのは家康の入国以降で町づくり、城の整備をする。家康・秀忠・家光の三代にわたって、諸国の大名に奉仕させ、堅固な城郭を完成させる。・明治以降、江戸城の中は全く改造され、昔の面影を残すのは、堀と石垣と門、そして二・三の櫓だけとなり、今は歴史の虚構として偲ぶ形となっている。

《日時》2017 (平成 29) 年 2 月 22 日 (水) 10 時 00 分～15 時 00 分 : 小雨決行

《集合》JR 東京駅 丸の内中央改札出口 午前 10 時 00 分

《費用》交通費(電車・バス等)、保険代 200 円等

《持物等》歩き易い靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等

《申込・問合せ》元木孝 TEL : 0493-54-0401 (携帯 090-2259-1673) Eメール : qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp

《その他》次回予定は、平成 29 年 5 月 5 日(金)府中市の大国魂神社「くらやみ祭り」

祭祀遺跡と神社の成立

—祭祀遺跡から復元する

—古代祭祀と神社の起源—

日本の伝統的な信仰の場である神社。それは如何に成立したのか。最近の祭祀遺跡の発掘調査の成果に基づき、古墳時代の祭祀の姿を復元、そこから神社の成立について具体的に考えてみたいと思います。

講師 笹生 衛 先生

(國學院大學神道文化学部教授、國學院大學博物館長)

日時 平成29年2月19日(日) 午後1時30分
～3時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分)

参加費 300円

当日は返信ハガキをお持ち下さい。

ご参加のお申込みは、**往復ハガキ** に イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は
会員番号 を明記、返信面に住所・氏名を記入

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

締切:2月15日(水)。 定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

明治天皇の氷川神社御親祭150年を迎えて

副会長 岩井 隆 興

今年、明治元年10月28日、明治天皇が氷川神社に御参拝なされましてから150年になります。

そこで、氷川神社では御親祭150年奉祝会が結成されるなど種々準備がすすめられています。明治維新までの氷川神社は、神橋を渡って左側に男体宮、御祭神は須佐之男命、右側に女体宮、御祭神は稲田姫命、神地前右側に簸王子宮、御祭神は大己貴命の三社からなり、それぞれ岩井家、角井家（東角井）、内倉家（後に角井、西角井）が奉斎していました。明治15年本社（男体宮）御改造の際、二社を本社に相殿として齋祀することが認められ、同29年5月内務省告示第44号を以て正式に合祀され、今のかたちになっています。

明治元年10月、今般御東幸遊ばされるに付き祭政一致の思食を以て別紙勅書の通り、武蔵野国大宮駅氷川神社以後当国の鎮守勅祭の社と定め、当月下旬行幸御参拝遊ばされる旨、行政官より通達され、本社は男体宮須佐之男命に相限り、女体宮、簸王子宮は撰社に格付けされました。そして神祇官より神主は岩井伊予、祢宜角井駿河（東角井）祢宜角井出雲（西角井）と申し渡されました。突然のことで神社側では大変なことになり、神祇官の指示により本社の改造や、天皇の休息所となる岩井家では鳳輦が直接玄関に横付け出来るようにするための鳳輦寄せや、天皇の休息所となる玉座をつくるなどの大改造がおこなわれました。この行幸の様子は、明治天皇行幸絵巻に描かれていますが、この時、聖上が本社へ御幣物黄金二枚銀二十枚、撰社へ金五両銀五枚奉納されました。この御幣物を以て祭礼用神具を製造いたしたい旨弁官御伝達所へ伺い立てたところこれが認められ、御神鏡三面、八岐大蛇にちなみ龍を描いた薄端八台铸造しました。このことは、東角井家日記明治2年2月21日に「御神鏡ハ学校所ニて上方より鑄物師参り尤四五人も参り 十九日に監物殿右の場所ヲ地祭致し夫より打はじめ候事 壺人は装束ヲ着し候て打外ハ皆白キ衣類ヲ着し打候由也」と記されています。御神鏡は御本殿に納められ、薄端は現在確認できるのは我が家の一台だけで、氷川神社では今回これをかたどり複製品を2台作り、150年祭の時花を生け神前に供えることになりました。

また、昨年12月6日、戸隠神社の方10人ほどが氷川神社に参拝に見えて、岩井家の子孫に会いたいと連絡があり急遽駆けつけますと、戸隠神社は天台宗の僧侶が奉祀してきましたが、明治維新の神仏分離政策により神社への転換が図られ、復飾し引き続き奉祀することになり、そのため神社祭式を学ぶため、当時氷川神社の古道学師として岩井家に寄宿していた岩井清臣を招き指導して頂きました。今日はそのお礼参りであり、10月の150年祭にぜひ戸隠神楽を奉納したいとのこと、今から楽しみにしています。

お知らせ

今般、任期途中ながら12月31日をもって宮川 進氏が会長職を辞任、友の会を退会されました。今後につきましては会則に従い副会長が職務を代行し、新会長は平成29年5月の定期総会において選出されます。会員の皆様の一層のご協力、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

平成29年(2017)2月10日

副会長代表 中村 均

副会長 岩井隆興 齊藤文孝

※この件についてのお問い合わせは博物館内友の会受付（土・日・祝日のみ）にて承ります。

トピックス・友の会

ぜひ、ご参加ください！ 今後のイベントスケジュール

* 申し込みはJUNOに応募要項が掲載されてからお願いします

<平成28年度>

- 2月11日（土） 古道探索倶楽部「東浦和～与野」東浦和駅集合 <前号で紹介>
- 2月19日（日） 友の会・博物館共催講演会「古代祭祀と神社の起源」
講師：笹生衛先生（國學院大學教授） <前号で紹介 募集は締切>
- 2月22日（水） 日本の祭り研究クラブ「江戸城址（皇居東御苑）」<前号で紹介>
JR東京駅丸の内中央改札出口集合
- 2月28日（火） 友の会・見学会「東京の古墳3」<今号で紹介>
- 3月21日（火） プレミアム講座「埼玉の県令」<次号で紹介予定>
- 3月26日（日） 友の会・博物館共催講演会「縄文時代の老人と子供」<次号で紹介予定>
講師：山田康弘先生（国立歴史民俗博物館教授）
- 3月28日（火） 友の会・見学会「相模国分寺方面」<今号で紹介>

<平成29年度>

- 4月01日（土） 古道探索倶楽部「北与野～指扇」北与野駅集合
- 4月23日（日） 友の会・博物館共催講演会「エジプト発掘の魅力」
講師：吉村作治先生（早稲田大学名誉教授）
＝会員限定とする予定です。ぜひ、周囲の方々にご入会をお勧め下さい＝
- 5月27日（土） 友の会総会および博物館共催講演会「富士山の噴火に関わる歴史」（仮題）
講師：小山真人先生（静岡大学教授）
- 5月05日（金） 日本の祭り研究クラブ 「府中市・大国魂神社のくらやみ祭り」
- 6月03日（土） 古道探索倶楽部「赤山街道越谷道」西新井宿駅集合

<予定>

- 講演会 仮題「日本の山岳信仰」
- 講演会 仮題「板碑の発生（塔を含む）」
- 講演会 仮題「木綿が町を作った」
- 講演会 仮題「万葉集関係」

友の会からのお知らせ

友の会の会員資格、ご更新（新年度会費納入）のほど、よろしくお願い申し上げます

- ◎友の会新年度会費未納の皆様「振替用紙」を同封させていただきました。4月以降の年度会費の納入＝会員資格の更新をいただきますようお願いいたします。来年度も博物館を応援し、イベントを楽しみましょう！すでに会費納入済みの方には失礼いたします。
- ◎博物館における受付は土・日・祝に行っております。こちらでのご更新も可能です。
- ◎あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。お手伝いのお申し出も、上記の友の会の受付へ、お声かけください。

相模国めぐ今と昔が寄りそうまち巡り

桜咲く頃、史跡相模国分寺跡と現相模国分寺を訪ね、はっぼうよけ八方除で有名な相模国一之宮・寒川神社を参拝し、合わせて湘南の城山大磯公園も探訪します！

【見学コース】

- ①海老名市温故館（国分寺関係の資料館）と史跡相模国分寺跡
- ②現相模国分寺（鎌倉期の重文・梵鐘、尼の泣き水供養碑などあり）
- ③海老名甲羅本店で昼食（海老天定食）
- ④相模国一之宮・寒川神社（「神嶽山神苑」と「方徳資料館」を特別拝観）
- ⑤大磯町・高麗山（麓に高来神社が鎮座している） ※車窓からの見学です
- ⑥神奈川県立大磯城山公園（大磯町郷土資料館で学芸委員から解説あり）
- ⑦東名海老名サービスエリアで小休憩とお買い物

〈ご注意〉◎高来神社はバスが駐車できないので、今回は参拝いたしません

- ◎歩く場所が多く、石段あり、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください
- ◎復路≪名産品充実の東名海老名サービスエリア≫で小休憩

日 時 平成 29 年 3 月 28 日（火） 雨天決行

出 発 午前 8 時 00 分（時間厳守をお願いします）

大宮駅西口・ソニックビル西側で大型バス待合わせ（友の会旗を掲示）

参加費 7000 円 当日集金（おつりのないよう御協力ください）

◎ ご参加のお申込みは～

- ・締切期日 2月28日（火） ・定員 45名（先着順とさせていただきます）
- ・会員限定ですがご家族、ご友人はご参加いただけます
- ・申込み方法 *往復ハガキに住所・氏名・会員番号・当日連絡可能な電話番号を明記のこと
 - ・宛先 〒330-0852 さいたま市大宮区大成町 3-503-4 高瀬敏男へ
 - お問合せは 048-652-7324（申込みはおハガキで）
- ・その他、座席のご希望や集合場所地図をご希望の方はハガキに明記ください
- ・当日緊急連絡先 *携帯電話 090-9104-2979 事務局 高瀬 敏男

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会見学会

シリーズ 東京の古墳巡りその3

多摩川中流に

「終りの古墳」

を訪ねる



平成24年に友の会では東京都内に遺る古墳を都心部・多摩川下流域の2度にわたり見学しました。今回はその続きとして多摩川中流域の古墳を巡ります。

3世紀中頃に始まる前方後円墳の築造が終わりを告げる6世紀末から7世紀にかけて、多摩川中流域では変化に富んだ古墳群が形成され、やがて武蔵国衙・国分寺の造営へとつながっていきます。律令国家という文明社会を上げた人々の背景を、この地の古墳を通して感じてください。

行程 大宮—あきる野市—瀬戸岡古墳群—日野市七ツ塚古墳群—多摩市—稲荷塚古墳(八角墳)—昼食(和食処サガミ)—府中市—熊野神社古墳(上円下方墳)—狛江市—亀塚古墳—兜塚古墳—大宮着(18:30 予定) 適宜トイレ休憩致します

日時 平成29年02月28日(火) 雨天催行(積雪多い場合は中止)
集合時間 午前8時(時間厳守)
集合場所 JR大宮駅西口・大宮ソニックビル西側
参加費 7,000円(昼食代・資料費含む)

ご参加の申込は

★往復はがきに見学会名・住所・氏名・会員番号・ご連絡先(できれば携帯)を明記の上、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 宛 お送り下さい

★締切02月23日(木) 必着 ★募集定員33名(満員次第締切)

※2月20日以降着信のご返事は電話で連絡いたします

★会員限定ですがご家族、友人は同伴参加できます。座席希望あれば明記の事

★道路事情を考慮して中型バスの利用となります。

見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先 090-2404-9553 中村均

“いつまでも” 子供の様に “好奇心” を持ちたい！

会員 元木 孝 (吉見町)

「好奇心」を失うことなく、常にテーマを見つけ前向きに歩んで生きたい！ これは、8年前『JUNO』の巻頭記事の最後に小生が記した内容です。その時、目標としてあげたのは

- ①心身ともに健全なる手段として、山歩きを継続すること。
- ②社会貢献として、地域とつながるボランティア活動を行う。
- ③脳の活性化を図るために、学ぶことができる趣味を持つこと。

でした。そして、今も元気で健康な状態が続いているので、一年間のスケジュールを立て、状況を見定め、又追加しながら活動しています。新たに、

☆地域仲間との交流を図るべく活動

☆3年間通ったいきがい大学東松山学園校友会の活動（史跡・ハイキング、スポーツ活動、社会貢献活動、社会見学等）

☆ボランティア活動は、吉見町埋蔵文化財センターの体験学習等の手伝いを退き、社会福祉協議会のささえあいサポーター（通院や買物などの付き添い支援・掃除・樹木の伐採等）・配食サービス（お弁当の配達・安否確認・利用者さんとの交流）

☆友の会お手伝い（理事・お祭りクラブ・ブログ記事作成等）等
を加え活動しています。

山歩きは、10年前と同じ気持ちで無理のないかたちで、天候や日程を調整しながら月に1～2回程度を歩きます。

「知らないことは無限」にある「未経験のことも無限」にある。人間は創造的に生きることによって「感動」を手に入れることが可能である。従って、関心・興味等があることは、ジャンルに関係なく積極的に出掛ける。体力・性格の差はあるが、その人の持つ世界観に関わっている。自分で勝手に常識の枠をつくり、チャレンジを止めてしまうと、創造力がなくなって来る。新鮮な見方・考え方をすると、生きる「意欲」も湧いてくる。その「意欲」が「感動」を生む。前向きな気持ちで生きる時、人生に意欲を持っている時は、脳の状態が良いという！

人間の脳というものは、一生学び続けるものであると！ 人生を豊かに生きるために、心に感動を生み出す為に、自ら持っている感情のレパートリーを精一杯活用する。

“子供は好奇心・意欲のかたまりである。”

「感動」は脳や人生を変える力がある。元気に行動が出来れば『好奇心』はますます増進してきます。

今後のイベントスケジュール ぜひ、ご参加ください！

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

<平成28年度>

- 3月21日 (火) プレミアム講座「埼玉の県令」<今号で紹介>
- 3月26日 (日) 友の会・博物館共催講演会「縄文時代の老人と子供」<今号で紹介>
講師：山田康弘先生 (国立歴史民俗博物館教授)
- 3月28日 (火) 友の会・見学会「相模国分寺方面」<前号で紹介<申込み締切ました>

<平成29年度>

- 4月 1日 (土) 古道探索倶楽部「北与野～指扇」北与野駅集合<今号で紹介>
- 4月 7日 (金) まち歩き研究会「戸田市」浮間舟渡<今号で紹介>
- 4月23日 (日) 友の会・博物館共催講演会「エジプト発掘の魅力」<今号で紹介>
講師：吉村作治先生 (早稲田大学名誉教授)
=会員限定とする予定です。ぜひ、周囲の方々にご入会をお勧め下さい=
- 5月 5日 (金) 日本の祭り研究クラブ 「府中市・大国魂神社のくらやみ祭り」
- 5月27日 (土) 友の会総会および博物館共催講演会「富士山の噴火に関わる歴史」(仮題)
講師：小山真人先生 (静岡大学教授)
- 6月 3日 (土) 古道探索倶楽部「赤山街道越谷道」西新井宿駅集合

<予定>

- | | |
|-----|------------------|
| 講演会 | 仮題「日本の山岳信仰」 |
| 講演会 | 仮題「板碑の発生 (塔を含む)」 |
| 講演会 | 仮題「国分寺について」 |
| 講演会 | 仮題「万葉集について」 |

友の会からのお知らせ

友の会の会員資格、ご更新 (新年度会費納入) のほど、よろしくお申し上げます

- ◎友の会新年度会費未納の皆様「振替用紙」を同封させていただきました。4月以降の年度会費の納入=会員資格の更新をいただきますようお願いいたします。来年度も博物館を応援し、イベントを楽しみましょう！すでに会費納入済みの方には失礼いたします。
- ◎博物館における受付は土・日・祝に行っております。こちらでのご更新も可能です。

理事会からの報告

- ◎2月19日の理事・サポーター会議で、「友の会の事業企画と運営」を効率的に行うために、執行委員会を設置することが提案され承認されました。委員会メンバーについては、後日発表いたします。

友の会の活動にご参加ください

- ◎友の会のすべての事業・運営は会員のボランティア活動で行われています。会報『JUNO』の製作や印刷、発送も会員が集まって毎月行っています。
- ◎簡単なことから事業 (見学会、講演会、クラブ活動) の企画運営まで、あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。お手伝いのお申し出も、上記の友の会の受付へ、お声かけください。

縄文時代の老人と子供

—墓から浮かび上がる縄文人の人生、生涯、生活、生き方—

縄文時代に尊敬すべき「老人」はいたのか。子供たちはどのような社会的位置にあったのか。豊富な人骨出土事例から縄文社会の実態に迫る。墓制から古くより現代にまでつながる思想である縄文死生観を「老人と子供の考古学」というご著書のある山田先生にお話をいただくものです。

講師 山田 康弘 先生

(国立歴史民俗博物館教授)

日時 平成29年3月26日(日) 午後1時30分
～3時30分

場所 当館講堂(東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分)

参加費 300円

当日は返信ハガキをお持ち下さい。

ご参加のお申込みは、**往復ハガキ** に イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方
会員番号 を明記、返信面に住所・氏名を記入

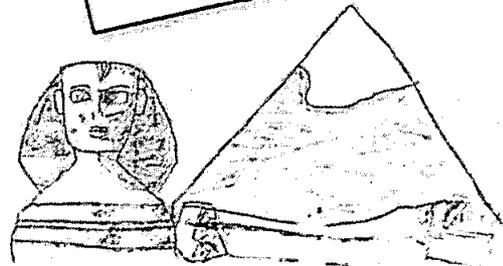
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

締切:3月22日(水)。 定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

エジプト発掘 の魅力

会員限定



—エジプト調査隊・発掘レポート—

1966年早大調査隊のエジプト派遣以来、約半世紀にわたる発掘調査により、国際的な評価を得ているエジプト考古学者吉村作治氏のお話しをお聞きします。

日時 4月23日(日) 午後1時30分～3時

場所 当館講堂(東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分)

講師 吉村作治先生

(東日本国際大学学長・早稲田大学名誉教授)

参加費 300円

当日は返信はがきをお持ちください

申込みは、往復はがきに、講演会名・住所・氏名・会員番号・電話番号を明記し、(会員限定により会員番号のない申込みは無効となり、1枚のはがきに申込みはおひとり様まで(連名不可)とします)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 宛へ

締切は 3月25日(土) 必着

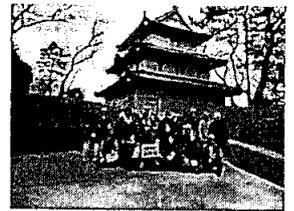
定員150名を超えた場合は抽せんとなり、当選ハガキの返送は3月末となります。予めご了承ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

江戸城址(東御苑)と周辺ウォーク

友の会・お祭りクラブ 2月22日に開催

東京駅丸の内中央改札に 22 名参加。比較的穏やかな天候。皇居東御苑は、皇居造園の一環として旧江戸城本丸、二の丸及び三の丸の一部を皇居附属庭園として整備、一般公開される庭園。本丸跡など見学。昼食後は、富士見櫓、松の大廊下跡、富士見多門を見学し、本丸跡も見学。天守台へと足を運ぶ。本丸と二の丸を結ぶ汐見坂を通り、北桔梗門から東御苑、北の丸公園に。田安門は慶長 12 年 (1607) 創建し、現在の門は嘉永 13 年。台地の高低差を実感しながら外桜田門に到着。(詳しくは友の会ブログをご覧ください)



鎌倉街道を訪ねて《赤山街道大宮道 2》

友の会・古道探索倶楽部 2月11日に開催



参加者 35 名。コースは武蔵野線東浦和駅—大間木氷川神社—清泰寺—大熊家表門—旧高野家離れ座敷—寛保の庚申塔—赤山通り商店街—JR 与野駅。最初は「大間木氷川神社」。創建は室町期、本殿は江戸時代の寛文 7 (1667) 年に建てられ、一間社流造りでさいたま市の有形文化財。大熊家表門は江戸時代末期の切妻造りで、もともとは中山道浦和宿本陣星野家の表門、当時を知る唯一の遺構といわれる。旧高野家離れ座敷は蘭方医の高野隆仙の離れ座敷で数寄屋造り、市の文化財。ここをバックに記念写真撮る。お昼は緑区中尾の「豆だぬき」、今日は満月ということでお重弁当の「満月」が通常の半額、参加者全員で美味しく頂きました。15 時頃に与野駅に無事着き、解散。風もなく寒くもなく穏やかな一日でした。お疲れさまです。(詳しくは友の会ブログをご覧ください)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

第18回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道大宮道 3

4月1日(土)に「古道探索倶楽部」の街道歩き

- 《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」
- 《日時》平成 29 年 (2017) 4 月 1 日 (土) 9 時 30 分～15 時 30 (予定)
- 《集合》JR 埼京線北与野駅改札口付近(9:30)
- 《コース》JR 埼京線北与野駅 ⇒ 赤山橋 ⇒ 正圓寺 ⇒ 御屋敷山跡 ⇒ 日枝神社 ⇒ 側ヶ谷戸古墳群 ⇒ 慈眼寺 ⇒ 金山神社 ⇒ 永田陣屋跡 ⇒ 高城寺 ⇒ JR 川越線指扇駅
- 《費用》資料代等 300 円
- 《その他》少雨決行 (悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約 10km で、史跡巡りをいれると約 12km です。歩きやすい服装・靴でご参加ください。歩きやすい服装・靴でご参加ください。途中にコンビニ が少ないので水分は必ず事前に御用意を。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
- 《申込》3 月 25 日 (土) までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号 (ご自宅・携帯とも) を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸 3-8-17 犬走東道あて。
- 《問合せ》前日まで犬走 (いぬばしり) 電話 048-756-5634 当日は 小俣 (おまた) 携帯 090-3436-9017

◆ 渡船とボート場の街—戸田市の歴史と文化 ◆

4月7日(金)に「まち歩き研究会」初めての活動です

- 《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「まち歩き研究会」(浮世絵クラブを改名)
- 《日時》平成 29 年 (2017) 4 月 7 日 (金) 10 時～15 時頃 小雨の場合決行 (各自で判断)
- 《集合》午前 10 時 00 分 JR 埼京線 浮間舟渡駅 改札前
- 《内容》中山道の宿場で、渡船場。水害の歴史を乗り越えてボート場の街となって発展してきた戸田市の歴史と文化を楽しむ。博物館では渡し場の歴史などの展示が充実。当日は解説も。午前中約 2 時間程度の徒歩予定
- 《行程》浮間舟渡駅→浮間ヶ池 (荒川と浮間の歴史) →17 号線 (中山道) →戸田橋→渡船場跡の碑→戸田親水公園 (戸田ボートコース散歩) →戸田公園駅=戸田駅 (駅前で昼食休憩) →戸田市立郷土博物館 (見学、説明)
- 《費用》交通費 (各自)、資料代 300 円程度
- 《申込・問合せ》① F A X : 048-470-2758 ② E メール : pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③ 「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォーム

埼玉の県令

～白根多助を中心に～

第2代の埼玉県令を務めた白根多助は、名県令と言われ、大宮公園内に頌徳碑が建てられています。本講座では、明治時代初期の変革期に活躍した白根多助に焦点を当てて、知事制度が始まる前の県令が行った埼玉県の行政と当時の社会について知る手掛かりにしましょう。

講師の井上さんは、日本近代史がご専門。今年度から展示を担当され、日頃から第9室の展示の刷新・紹介や埼玉の近代史の調査・研究に取り組んでおられます。

講師 井上 かおり 氏 当館主任学芸員

とき 平成29年 3月21日(火) 午前 10時～11時

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名、住所、氏名、電話番号、会員番号を明記。あらかじめの質問があれば簡単にご記入ください。 締切:3月18日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達
はご参加いただけます。今回は館の都合により午前中の開催です。お間違えなく!

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会